

## 「ハレルヤ子ども食堂」への想いや目指す目標・イメージについて

NPO法人アジアキッズケア

アジアキッズケアを立ち上げて約 18 年。娘が亡くなったことをきっかけとして、夫婦で子ども支援の団体を立ち上げて、アジアやアフリカの貧困や困難な状況にある子供たちを継続してサポートしてきました。

最初は、インドの孤児院への支援物資(衣類、文房具、楽器、スポーツ用具、バック、くつ、玩具等)の発送から始まりましたが、その後多くの留学生や外国人の方々が団体事務所を訪ね、「私の国にも貧しい子供たちがたくさんいるので、支援物資を送ってください。私や現地の家族・友人も協力します。」等の支援要請があり、支援国は徐々に 17 か国に広がり、支援物資の発送は 1100 箱を越えました。

加えて、日本の子供や若者たちも、学校等で友達に呼び掛けて支援物資や募金を収集し、荷造りボランティア(偶数月の第 3 日曜日 14:00~実施)にも参加してくれています。全国の小・中・高校等から、心のこもったお手紙を添えて支援物資が届きます。私たちの支援活動への参加者は、その 8 割以上が日本の子供や若者たちです。

荷造りボランティアでは、現地の子供たちが受け取って喜ぶ写真を紹介し、留学生や現地の方から母国紹介を聞いて交流を深めるとともに、現地のお手紙の中から「日本からのプレゼントをありがとう。私たちは受け取ってとても嬉しくハッピーです。服は私の心も温かくしました。」等のメッセージを伝え、参加者全員が笑顔になっています。

子供や若者たちの感想には、「困っている子供たちのために動くことができうれしかった」、「また支援活動をして、一人でも多くの笑顔に出会いたいと思った」、「誰かの役に立っているという充足感を感じた」、「留学生の話で、自分が知らなかった世界を知ることができた」、「作業の中で、荷物を受け取った方々の笑顔が浮かび、私の心も温かくなった」、「買いたくても買えない子供たちがいることを知り、物の大切さを改めて感じた」等が書かれ、自分の存在価値や自己肯定感を感じながら、リピーターになって支援活動に協力してくれています。

現在、コロナ禍により、世界中の子供たちに大きな影響を及ぼしています。特に、貧困地域の人々は、ロックダウン等により、移動・仕事・商業施設・学校等に制限が加えられ、生活及び食べることへの困難が増大しました。私たちは、微力ですがこうした国への食糧支援を行う中で、日本の子供たちに貧困が及ぼしている現実問題にも直面することが増えてきました。

そうした場面の中で、経済面・食事等の困難に対しての物的支援の必要性とともに、ひとり親・ひきこもり・外出自粛等の要因によって、子供たちが孤立・孤独感等の寂しさを深めており、愛情欲求に加えて一緒に楽しい時間や関わりを共有できる友人や居場所を必要としていることを痛感しました。それは、子供たちにとって、世界共通の心の大切な食事であると思います。

そこで、コロナ対策をきちんとしながら、食事や食材等の提供に加えて、楽しい時間を共有する居場所や関わりを提供するとともに、子ども、大人、外国人、高齢者等、同じようなニーズのある全ての方を対象に支援したいと想い「ハレルヤ子ども食堂」を始めました。

当団体では、令和 3 年 11 月より、毎月第 2・4 土曜日 11:00~13:00 に、厨房・食堂等の会場を無償貸与してくださるキリスト教会・松山福音センター(松山市平和通 1 丁目 6-6)との共催にて開催しています。調理は高齢者の方々がボランティアで担ってくださり、全て手作りによるまごころ込めた食事を提供しています。

近隣の道後地区や愛媛大学周辺より、幼児から高齢者までの方々や外国人も来てくださり、国際色豊かな雰囲気の中で楽しいレクリエーションの時間を持ち、ゲームや紙芝居などをして和やかなコミュニケーションや笑顔が見られています。ここには、高校生等がボランティアとして自主的に参加し、幼児と触れ合いながら兄弟姉妹のような子供たち同士の交流を深めていて、小さな子供はそれを楽しみに参加しています。

お母さん方や高齢者等の皆様にも、心の休まる安心できる居場所として、「とても温かい雰囲気、心がほっこり安らぎます。子供たちも笑顔になり、食事も美味しいです」等の感想をいただいています。ご希望者には、お土産として食材や子供用品等をお渡ししています。

日本の未来を担う子供たちが、コロナ禍の様々な困難に負けないで、元気で、心優しく、逞しく育ってほしいと願っています。どうぞ、お気軽にお越しください！！

NPO法人アジアキッズケア 代表:喜安美紀、事務局長:喜安勝也

(追加の写真)

